

# Osaka Metro まちさんぽ

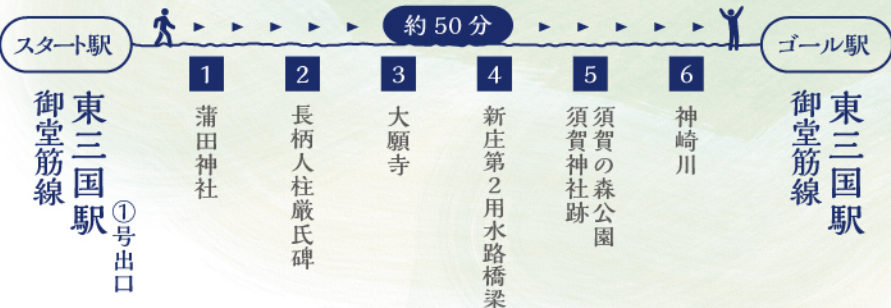
東三国駅  
50分  
コース

御堂筋線 東三国駅  
いわうじ  
長柄の人柱・巖氏

## 「鳴かずばキジも撃たれまい」

古代、神崎川から大阪市内の大川付近まで、淀川の下流が幾筋も分岐した低湿地デルタ地帯を形成し、神崎川あたりは長柄江と呼ばれていました。長柄江の急流に村人たちが橋を架けようとして「長柄の人柱」の伝説が生まれました。

ものいわじ  
父は長柄の橋柱  
鳴かずばキジも  
射られざらまい



長岡京に遷都した桓武天皇は、延暦4年(785)に新首都と瀬戸内海を結ぶために淀川と安威川を直結する運河を開削しました。長岡京造営に必要な木材は阿波、讃岐、伊予の三国から運ばれたため、その運河を三国川と呼びました。三国川はやがて下流の神崎の渡しが賑わって神崎川と呼ばれるようになりました。

東三国駅  
50分  
コース

# Osaka Metro まちさんぽ

御堂筋線 東三国駅

長柄の人柱・巖氏

## 「鳴かずばキジも撃たれまい」

古代、神崎川から大阪市内の大川付近まで、淀川の下流が幾筋も分岐した低湿地デルタ地帯を形成し、神崎川あたりは長柄江と呼ばれていました。長柄江の急流に村人たちが橋を架けようとして「長柄の人柱」の伝説が生まれました。

スタート駅

約 50 分

ゴール駅

### 御堂筋線東三国駅①号出口

### 御堂筋線東三国駅

#### 1 蒲田神社

南北朝の時代に播磨国室津にある室の宮(室明神社)の分霊を祀ったのが創始とされ、室の明神と呼ばれていました。明治の晩年に当地の字名から蒲田神社に改名しました。かつて数十株の巨木のクスノキが繁茂していたといわれて、境内には切株の上に稲と水の神とされる巳(へび)を祀る白光社や社殿裏に千年樟があります。



#### 2 長柄人柱巖氏碑

長柄江では古代から淀川が氾濫を繰り返して農民をひどく苦しめていました。推古21年(613)、ここに橋を架けようと工事が始められましたが、急流で何度も橋桁が流されて工事が難渋しました。そこで役人が、現在の吹田市の垂水村にいた巖氏という長者に相談したところ、巖氏は「袴に継ぎの当たった者を人柱にしない」と進言しました。役人が見回すと巖氏本人が継ぎの当たった袴をはいていたので、巖氏を人柱に選びました。巖氏は娘の照日に別れを告げ、石櫃に入り、生きながら橋柱の下深く埋められました。巖氏が人柱になるや、橋は難なく架設され、大水が出て流されなかったといいます。北河内に嫁いでいた娘・照日は、父の死後、悲しみのあまりものをいえなくなっていました。困り果てた夫は、照日を実家に帰そうと垂水の近くまで連れてきたとき、突如、鳴き声を上げて飛び立った一羽のキジを射落しました。それを見た照日は「ものいわじ 父は長柄の橋柱 鳴かずばキジも射られざらまし」と詠じ、妻が口を開いたのを喜んだ夫はキジを手厚く葬って、もと来た道を引き返して、その後は仲良く暮らしました。この歌は、今日まで「口は禍のもと」という戒めとして知られていますが、自ら志願して人柱になったという究極の自己犠牲談としても語り継がれています。



#### 3 大願寺

長柄の人柱となった巖氏は自ら犠牲になることを選んだ者として朝廷に伝えられ、推古31年(623)、天皇の勅命により人柱埋没の地の畔に大願寺が建てられました。それから400年後の寛仁3年(1019)に、巖氏の精神に感銘した後一条天皇の勅命により仏師・定朝が残した長柄橋の橋杭を用材として彫った地藏尊が、正門脇の地藏堂(番神堂)に祀られています。



#### 4 新庄第2用水路橋梁

この鉄道橋が新庄第2用水路橋梁と名づけられているように、もともとは水路を跨いでいたものです。水路が埋め立てられて歩道になったために高さ1.5mの制限のある低いトンネルになっています。背の高い人や自転車の人は首を屈めて通行します。



#### 5 須賀神社跡・須賀の森公園

東三国地区を少し東に行くくと西淡路になります。西淡路は昭和33年(1958)まで国次町という地名で、これは刀工・来国次から採ったものです。来一族が南北朝の戦乱を避けて京から淡路に移り住んだ際、一族の鎮守として創建されたのが須賀神社で、明治43年(1910)に中島惣社に合祀されました。このあたりは古代より湿地帯で、豊富な水源で育ったクスノキの巨木が随所に見られますが、須賀の森公園にも大阪府の天然記念物に指定された樹齢600年といわれる大クスノキがそびえています。



#### 6 神崎川

延暦4年(785)、長岡京遷都に伴って安威川と淀川を結んで瀬戸内海に直結する工事が和気清麻呂によって進められて、神崎川の流れになりました。現在は摂津市の一津屋で淀川から分岐し、安威川、猪名川と合流して大阪湾に注いでいます。淀川は河口に土砂が堆積してしばしば船の運航を妨げたので、神崎川は京と瀬戸内海を結ぶ主要航路として発展しました。平安時代には、河口の神崎(尼崎)が京から西日本の荘園や住吉大社詣でに向かう貴族たちで賑わい、また神崎川と淀川分岐点の江口は遊女が集まった歓楽地として全国に知られました。



文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。なお、掲載している情報は2024年6月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro

協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会 (お問い合わせ先)大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp

後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

<https://www.osaka-asobo.jp> または  で検索

#### ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。

※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。住宅敷地内での写真撮影は厳禁です。

#### ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

#### 駅スタンプ押印欄



毎月第1金曜日発行